

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



人生と道德

石倉新十郎

客觀的に人生を觀察してみれば、其の生涯は根本的に他の生物と殆ど變つては居ない。生れてから後自ら生活するに榮養を攝取したり排泄したり、成長したり生殖したりして終には必ず死滅して行くのである。何等生存の意義もまた目的もなく、唯自然生物としてその生涯を過して行くだけである。永い時の経過から眺めてみれば、珊瑚が形骸を珊瑚礁として遺し海鳥が硝石を遺したと同様に人間の文化はピラミッドや萬里の長城など遺したくだけであり、他方に歴史と言ふ語り草を止めたに過ぎないのである。千古不變の星辰から見れば何れも生物の新陳代謝の反復であつて、唯生命の受授持續だけでしか何でもない。客觀的に人生は無意義であり又實に寂寞其ものである。

續つて主觀的な人生を考へてみるに、自分は別に注文して生んで貰つたわけではない。だから生れた目的は更にわからない。また親の意志と無關係に自分は發生したのだから、自分の生存の意義を尋ね様がない。生れて見れば死ぬは厭であらう。恐ろしくもある。そして本能から来る慾望は次から次を生んで逝くが、現實は到底之れを満足させきくもない。前途は唯不確定の連續である。誰かそこに安心と歡喜を豫想する事が出来やうか。まして必然の死や死後の事に於いてをや

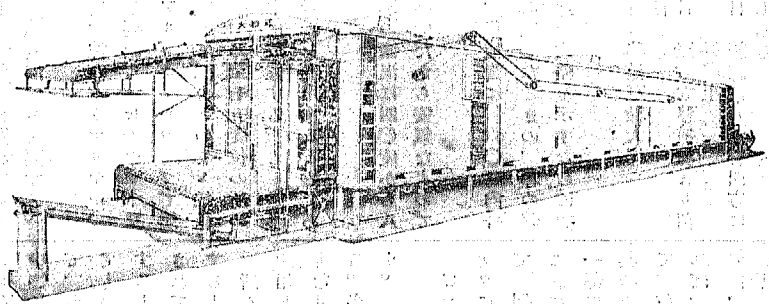
である。實に暗澹たるは主觀的にのみ見た人生である。こうした自分は一体何者か。誰しも自己の本來を考へてみたくなるであらう。

今の自分は確に昨日もあつた筈、去年も十年以前もあつたには違ひない。だが一應客觀的に考へて見ると、肉體細胞の生理的變化があり、新陳代謝で物質的變化があり、精神肉體ともに多少の變化がある。厳密に云へば今の自分と過去の自分とは同じでない。然しこんな認識は現實社會には通らない。今の自分が過去の自分と違ふとなると、責任と信用は全く消滅し、權利義務の繼續はなくなつてしまひ、あらゆる社會制度は根柢から壊滅するからである。客觀的認識ばかりでは、實に自分と云ふ者の確立さへなし得ないのである。

和清山香 編輯
市田上縣野長 發行
會所 印刷 澤中 所刷印

山本三郎著
化學純絹絲の工業的完成
蠶絲科學研究會編
伊太利蠶絲絹業の衰退原因と其の現況
菅原勇治著
改正 蠶絲業法規要論
¥2.30 ¥1.50 ¥0.30
市田上縣野長 發行
會究研學科絲蠶 所行發
〔振替長野6413番〕

現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



【各種型錄贈呈】

二五九五年代表型

製作發賣元
株式會社
大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋(56)五三二〇番

- 營業課目
特許大和式自動輸送乾繭機
特許大和式自動人絹乾燥機
特許帶川三光式乾燥裝置
特許やまろ式淨水裝置
特許サウナー式廢湯吸熱器
特許サウナー式高壓ポンプ
特許サウナー式トラツ

人間が工夫したものではない。之が自覺の根元ではないか。之が安心の根柢ではないか。

安心の範圍の擴大は自我の擴張に従つて伸展するのである。自分の擴張は父母を自分とし子を自分とする事から出發する。此の擴張した自分の平和と安心は自分をみづから父母や子に一致せしむる事に依つてのみ得られるのである。父母に一致せしむる自律の道が孝である。自分を子に一致せしむる道は何と云ふか知らないが、今假りに従と名づけるならば、此の孝と従とが社會的に自ら律する道德の根柢である。兄弟姉妹皆父母に一致するならば大なる自我の統一が實現する。

斯くする自律の道が友ではないか。夫婦互に子を通じて自分とするならば、其所におのづからなる和が生じ、自我發展して四隣に及んでは信となり、猶擴大すれば博愛となり奉公となる。擴大終に草木にまで及べば之を慈悲の光りと云ふてはなからぬ。斯の大我より起る平和の慾求は眞に人間自然の本性であつて、之を佛性ともまた本來の面目とも云ふ。斯くして天上天下唯我獨在である。

此の自律の自然道德は唯人間の自覺からのみ發生する。そして人間の發生が、父母による事實の繼續される限り、此の道德原理は、永遠に變る筈がないのである。

家蠶の消化液及び體液に於ける
アミラーゼ作用に關する研究

(第四回蠶絲學賞授論文審査要旨)

松村季美

著者は大正十三年以來家蠶に於ける諸種の酵素に就て實驗を進めた。其結果蠶兒の消化液及び體液中のアミラーゼ作用には品種的に又同一品種と見らるゝものの、中でも系統的に強弱(+)と(-)の差異あることを認めた。故にその異系統の分離をなし、夫れを材料としてアミラーゼ作用の遺傳現象を究め更に該酵素作用の強弱が發育時期、雌雄及び環境の相違による差をも明かにした。其の概要は次の如くである。

第一 アミラーゼ作用の遺傳に關する研究結果

一、消化液中のアミラーゼ作用の強弱は一對の相對形質としてモノ・メンデルアン遺傳をする。

二、體液中のアミラーゼ作用の強弱が亦一對の相對形質としてモノ・メンデルアン遺傳をする。

三、消化液及び體液中のアミラーゼ作用の強弱は(Aa)及び(Bb)の二對の遺傳因子を以て表すことが出来る。而して此二對の遺傳因子は聯關遺傳をなし雌に於て完全聯關雄に於て部分的聯關がある。而して雄に於ける交叉價は約一%である。

四、アミラーゼ因子の聯關群は第一及第二聯關群には屬せない。

五、家蠶に於てはアミラーゼ作用に關し次の四型が識別せられる。

因子型	アミラーゼ作用	
	消化液	體液
AB/AB	(+)	(+)
AB/Ab	(+)	(-)
Ab/AB	(-)	(+)
Ab/Ab	(-)	(-)

アミラーゼ型	表型
第一型	AB
第二型	Ab
第三型	aB
第四型	ab

六、日本種(一五)支那種(一四)及び歐洲種(一四)計四三品種に就てアミラーゼ型の分布状態を檢したるに日本種在來一化性品種は第二型、歐洲一化性品種は第三型若しくは第四型に限られ日本二化性品種は第一、第二、第三及び第四型を混在することが多かつた。

第二 アミラーゼ作用の消長に關する研究結果

一、アミラーゼ型の差異は卵、幼蟲、蛹及び成蟲の四期を通じて認めることが出来る。

二、齡別によつてアミラーゼ作用に變異がある。即ち消化液中のアミラーゼ作用(+)の系統に在つては一齡より齡の進むに従ひ強くなり五齡に於ては最も強い。同齡に於ては、盛蠶は起蠶よりその作用大である。之に反し體液中のアミラーゼ作用(+)の系統に在つては一齡より齡の進むに従ひ弱くなり五齡に於て最も弱い。

三、アミラーゼ(+)及び(-)型の差異は五齡蠶兒に於て最も判明である。而して(+)型に比し(-)型は殆どアミラーゼ作用が認められぬ。

四、アミラーゼ作用(+)の純系に在つても雌雄發育時期及び飼育環境の相異により、その作用の程度に變異がある。

之を要するに家蠶の酵素に關する化學的研究の例は從來少くないが本研究によりて初めて遺傳關係が闡明された。而して本業績は學術上貢獻する所大なるのみならず、又此應用は蠶品種識別の上に資する所からざるものと認めらる。

桑の枯枝で
食用茸の栽培

鍵谷傳

(一) 食用茸であるナメ茸、ヒラ茸、等を、空堀等の中で、ノコギリ屑を材料として栽培することは、各地で行はれてゐる。そして潤葉樹のオガ屑ならば、極めて好適してゐることは、参考書等で明かである。そこで、桑の枯枝を用ひて、栽培してみた。相當良い成績が現れたし、極めて興味もある故、千曲時報の餘白を借りて、一部報告して見る。

(二)

栽培材料、即ち、培養基として、桑の枯枝のなる可く古い條を集めて來て、よく日乾する。そして、『餅搗き』用の臼の中へ入れて、搗き碎くと、粉末となる。無論、三、四種の碎けぬ切れハシの棒等あつても差支へない。大部分が細末となれば結構である。そこで、この粉末を材料とし、その他は、米糠を凡そ、この二割米のカシ汁とを用意する。即ち、培養基としては、この枝の粉末と、米糠と、カシ汁との、三種で良い譯である。

(三)

容器として空堀、凡そ四五〇互入りの藥品の空堀が便利である。アルコールの壺か、フォルマリンの壺でも結構であるし、大小、各種のアキ壺で申分ない。その他綿、絲、アルコールランプ、培養基に、種菌絲を移す爲に、必要であるビンセツト、又は、『サジ』を要する。材料器具としてはこれで結構である。

(四)

培養基の製法は、桑枝粉末に凡そ、二割乃至三割の米糠を混合する。そして、米のカシ汁をかけて、練る。その濡し加減は、グツグツ握りしめて、指の間から、やうやく水滴の垂れる程度が良い。かくて、これを、先きに用意した空堀に詰め、棒の先きで、つき込んで、壺の口まで殆んど詰め、そして、最後に、材料を詰

めた中央に、壺の底にまで達する穴を明けて置く。次に、綿栓を嵌め、その上を油紙で、圖の如くに包む。



(五)

かくて、出来上がれば、これを煮沸して滅菌する。高壓の釜でもあれば、申分なしたが、普通の釜の底に、板を敷き、壺を載せ、その壺の三分の二内外の高さまで湯を入れて、徐々に熱して、凡そ二時間位煮沸し、後、冷却して、種菌を移植する。この殺菌して、種菌が蔓延せぬことが、必要で、充分、煮沸するを要する。

(六)

冷却したならば、彼のバクテリアを、培養基に移植する要領で、ビンセツト又は『金サジ』を、アルコールランプで焼いて、手早く移植して、もとのまゝ綿栓をし、温度五〇度、乃至七五度位の所の微暗な戸棚等の中に放置する。もし嚴冬の候ならば、催青器を利用すると妙である。

(七)

ナメ茸やヒラ茸の適温は四〇度から八〇度位と云ふ廣範圍だから安氣なものである。今、こうして、移植後に、六〇度内外の温度の場所に放置したときの、茸の發生までの狀態經過の大略を示すならば次の如きものだ。

種菌移植一日目	移植豆粒大
二日目	豆粒大移植塊より菌絲發生
三日目	絹綿狀の菌絲四方に蔓延し始む
四日目	五日目乃至十日目
凡一、二Cの伸長	菌絲毎日十一日目乃至二十日目
壺内	

の培養基順次白綿狀の菌絲により包圍さるゝに至る。二十一日より二十五日目白綿狀の菌絲は全部壺内容を包圍し、全く壺内は白き菌絲塊と化する。

斯うして、全く、菌絲塊となりしものが即ち發生用菌絲塊と呼ばれるもので、既に、茸の發生を始めつゝあるを見るであらう。

移植後二十一日より三十日目 壺の口へ茸發生し始む

三十日目以後壺の口綿を去り僅少の濕氣を『霧吹き』で與へる

(八) 茸の發生し始めてからの手當を、發生手當と云ふ。口に茸が出て始めたならば僅に『霧吹き』で濕氣を與へる。この時、水滴が出来てはいけな。そして、このビンをも、多濕にした箱、亞鉛箱、戸棚の中に入れて。この時濡れ雑巾等を敷いて、多濕とする。ビンを破つて發生させても良い。ビンを破れば一時に澤山發生するものである。培養基は、菌絲に包圍されてゐる故に、ビンを破つても、崩壊するものではない。

斯くて、傘の開いたものから採取して食用とすれば面白い。學校ならば教材ともなり、農家ならば自家用の食品ともなる。多量ならば、或は販賣も出来るだらう。

(九) ビン内に蔓延した菌絲を、碎いて、バケツに入れ清水を入れて攪拌する。そして、掘り起した桑株に、錠目を入れて、これに、如露で充分、散布して、桑園の一部に溝を掘つて、この中へ、伏せ込み其の上に、古き蓆、藁の類を、重ね覆つて、乾燥を防ぎ、凡そ六ヶ月内外放置すれば、ナメ茸が發生する。この方法に就ては、改めて、報告して參考に供したいと思ふのである。終りに、種菌絲の希望の方へは、御送附申上げる故、御知らせ願ひ度い。(一〇、四、七)

使う人、使われる人の爲めに

滿洲 湯川 秀夫

次の一文は滿鐵の業務改善資料(月刊)に登載の一節であるが、一つの組織の裡に働く者として使う人使われる人共に心得べき好参考と思ひ之を掲げる。殊に新たに社會に出てられた新卒業生諸君の玩讀を希望する。

部下の能力の見分け方

○はし がき

主務者の何時も頭を悩ます問題は部下の昇給、登格、拔擢の期に望んで、その部下のめい／＼がどれ程の職務能力を持つてゐるか云ふ事を見きわめる事である。と云ふ事は部下を昇給させたり、登格させたり、拔擢したりする事は、當人から今日以後將來に期待し得る業績を目安に行ふ事は理論上はつきりしてゐる事であるので、この將來の業績の見つけ方を付けるのは、何と云つても當人の職務の能力を明かにする事以外にはないからである。所で此處に職務能力と云つてもそれは色々な能力を含むものであるから、その各能力に就いて考へる必要がある。此處にはそれを次にあげる十の能力にわちその各々の程度を見わけける爲に考へるべき項目を、夫々に就き書き記して各位の御参考に供する事とした。

1. 責任感
2. 判断力
3. 計畫力
4. 遂行力
5. 獨創力
6. 研究心
7. 統御力
8. 協調性
9. 職務技術
10. 健康

1. 責任感

當人の責任感の程度を見る爲には、當人の日常に就き次の様な項目を觀察して見ればよい。

- a、一度命じた仕事は、その後要求しなくても、期日通りに仕事を完成して来るか?どうか?
- b、若し約束した期日迄に出来ねばその理由を當人から斷つて来るか?どうか?

- c、常に主務者からの追及に會ひ、それに追立てられて仕事をやる様な風が、その職務振りに見えはせぬか?
- d、別に期日は切らなくて命じた仕事で放つて置くと、何の挨拶も無く何時迄も放つたらかしのする風が見えはせぬか?
- e、勤務時間はその一分だも無駄にはすまいと心掛けている氣配があるか?どうか?退社時間の来る迄の時間つぶしと云つた風で、日頃勤務していはせぬか?どうか?

- f、命ぜられた仕事を引受ける時とか人と約束する時などに、それが自分には出来るか?どうか?をよく見届けた上でこれをなすか?それとも輕々しく引受けはせぬか?
- g、仕事でそれを妨げる様な事情にぶつかつた時、その障害除去に熱心であるか?どうか?
- h、又その故障によりたやすくその仕事を中絶しはせぬか?又薄弱な理由を口實にその仕事を中絶する事があはせぬか?

- i、日頃から時間や、約束はよく守るか?どうか?約束をよく忘れはせぬか?どうか?
- j、當然自分が責任を負うべき事件に面した時、何かと言譯、口實、理由を藉に、その責任をまぬがれ様とする氣配が見受けられはせぬか?どうか?

2. 判断力
- 當人の判断力の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

- a、當人の言葉、意見には何時もよく理論の條道が通つてゐるか?どうか?前後トントンカンカンな事をよく言いはせぬか?
- b、當人の云う處が、實は當人の経験や、個人的な感じ、好みなどに基づいた獨斷を多く含んでゐはせぬか?殊に他人の提案などに對しては、自分の経験に捕われず、よく正しい批判を下し得るか?どうか?
- c、實際の職務で判断力を必要とする場合に、どちらでもよいとか、どちらとも判断がつかぬと云ふ風は見えはせぬか?どうか?
- d、又その判断に基づく處置に對してうなづくべき理由を當人は持つてゐるか?どうか?
- e、會議などの席上で意見をよく述べ又賛否の態度を常に明かにするか?どうか?『一言居士』と人から呼ばれるが如きは、その人の判断力が一倍盛んな事を物語るものである。
- f、可成り込入つた事件にぶつかつても、その事件の核心を要領よく掴まへるか?どうか?
- g、日頃の行爲で常に公私の別をはつきりつけてゐるか?どうか?

3. 計畫力
- 當人の計畫力の程度を見る爲には、當人の日常につき、次の様な項目を觀察して見ればよい。

- a、總てその仕事の目的をはつきり掴む能力があるか?どうか?この能力は計畫をたてる爲には先づ必要な事である、目的がはつきりしない仕事にも平氣で従事する様な傾きがありはせぬか?
- b、仕事に取掛る前によく計畫をたてるか?どうか?無計畫のゆきあたりばつたりで、仕事に取掛りはしないか?殊に出張に際して、その計畫が充分行われてゐるか?
- c、仕事の前にたてさせた計畫が、細かい點に迄よく行届いてゐるか?どうか?随分細かい點で抜けた計畫をたてはせぬか?
- d、その計畫にはちゃんと體系がたつてゐるか?どうか?随分大事な點で抜けた計畫をたてはせぬか?
- e、事實仕事の途中で『あれも用意して置けばよかつた、これもして置けばよかつた』と、後悔する事がよくありはせぬか?
- f、事件に對する對策の立案は巧みか?どうか?『こつちう場合にはどうするか?』と聞いた時にまごつきはせぬか?

4. 遂行力
- 當人の遂行力の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

- a、餘り考え過ぎて、引込み思案、消極的となるのではないか?もつと『當つて碎ける』の格言を當人に實行して貰ひたい様な氣はせぬか?どうか?
- b、やりかけた仕事を最後迄やりとうそうとの執着心、意志力があるか?どうか?ちよつとした困難にでつくと、直ぐその仕事を投出し、諦めよすぎる所がありはせぬか?
- c、人との接渉事務に對して充分な技術を持つてゐるか?どうか?人を説き伏せる腕前はどうか?
- d、人との接渉、殊に地位の上の人との交渉に際して甚だしく氣おくれする態度が見えはせぬか?
- e、正確に、手際よく、機敏に事を處理する事が出来るか?どうか?
- f、勤勉だが、その能率は低くはないか?仕事の効果や能率には無關心で時間を無視し方法を選ばず、唯こつ／＼まじめにやつてゐればよいと云ふ風に考へてゐる氣配はないか?
- g、單に大過なしと云う程度で、業務の進歩改善に無關心ではないか?
- h、仕事のきまりをちゃんとつけるか?どうか?仕事やりつぱなしで、尻切れ端になりはせぬか?事後の報告書なども、纏まりよきものを提出するか?どうか?
- i、仕事に關係ある各方面に多くの知人を持つてゐるか?知人が多ければ、それだけ仕事の遂行がたやすくなるか?と行われるものである。

5. 獨創力
- 當人の獨創力の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

- a、當人から新鮮味のある、意見や提案が多く出るか?どうか?
- b、日頃の職務に獨創的な工夫や、方法などの現れたものが多いか?どうか?
- c、會議、其他の席上で述べる意見や提案に獨創味、新鮮味が豊かにあるか?どうか?
- d、事務を觀察して、其處から特異な何物かを要領よく掴まえる事が出来るか?どうか?萬事に平凡な觀察より出来ないのではないか?
- e、言ふ事、なす事が習慣を重んじ、それに捕われてゐる所が多くはないか?これは他人の提案に對してとる當人の態度を見ればよく譯るので、獨創力の豊かな人程習慣には捕われぬものである。

6. 研究心
- 當人の研究心の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

- a、一般に變つた現象に對する興味、好奇心は強いのか?どうか?
- b、業務上未知の問題にぶつかつた際なぜそうなるのであらうか?何の規定によりそうなるのであらうか?と云う様な事を知らうとする心持が強くあるか?どうか?物事を鵜呑みにする傾きがありはせぬか?
- c、ぶつかつた未知の問題の真相を極める爲に、その努力を事實おしきはせぬか?

せぬか？研究心の強い人は、出来ればすぐ其の場で、出来なければ後でそれの努力を費すものである。

d、單に大過なしと云う程度で、業務の進歩改善に無關心ではないか。

e、研究に依つて一般には未知の結論、事實、理論などを見出す事に特に興味を覚えるか？どうか？

f、他人の研究や調査に對して興味を持つか？どうか？そんなものには全く無關心ではないか？

7、統御力

當人の統御力の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

a、業務上で人々から尊敬されているか？どうか？

b、業務以外の事に就いても一般の人から信頼されているか？どうか？

c、その人の命令はよく行われるか？どうか？人々の反抗に會う事はないか？

d、多くの人に好感を抱かれているか？どうか？その言行に餘り角があつたり、鋭すぎる感じがあらはせぬか？

e、私行上人々から耳語される所はないか？どうか？

f、人々の色んな意見に對して充分これを批評する能力があるか？どうか？

g、人々の意見を充分に受入れる丈の雅量があるか？どうか？自分のものに自信を持つ餘り、排他的になるのはとらぬ。

h、人々に對するおもひやりの情があるか？どうか？

i、世話好きであるか？個人主義的色彩がはつきりしすぎてはいせぬか？

j、人々を説き伏せる丈の辯舌、人格の力をもっているか？どうか？

k、落付があるか？どうか？その態度が日頃からそれ／＼してはいせぬか？

1、功を人に譲る丈の雅量心掛があるか？どうか？

8、協調性

當人の協調性の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

a、他の一般の人から好感を以つて迎へられているか？どうか？

b、人に對して親切であるか？どうか？人に迷惑をかけた時、約束を違へる事を割合平氣でやつてのけるのではないか？

c、行ひに裏表がありはせぬか？どうか？人からの信用があるか？どうか？

d、餘りにおしやべりが過ぎたり、又は表現が平直、無技巧に過ぎて、波瀾を巻き起す事はないか？

e、理論を離れ、感情に走つて自我を主張する傾きがありはせぬか？

f、自分の執務に關し他からの提案や忠告を落付いた綺麗な氣持で受入れられる丈の心の準備を持つてゐるか？どうか？部下の提案はよく盛り立てゝやるか？どうか？

g、一度設けられた規則、乃至は統制に對しては、自分の感情や判斷は別として、これに服する丈の協調心があるか？どうか？

h、業務の改善に心掛ける他の同僚に同感を持たず、これを惡しざまに呼びそれに反する言動を亂りに執りはせぬか？

i、他人、乃至は他箇所の美點を賞め讃える事はせず、その缺點のみを大きくして語り傳へはせぬか？人を賞める言葉が少な過ぎはせぬか？

j、公務上の事に就いて、その缺陷と認められるものゝ矯正に對して、提

案、意見書の提出、其他の正當の手續を執らずして、徒らに不平許りを口にせる缺點がありはせぬか？

9、執務技術

當人の執務技術の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

a、適宜の文章を作り得るか？どうか？纏まりの無い文章や言い足りない文章を書きはせぬか？

b、文章中に正しい漢字を用いてゐるか？どうか？誤字が多きは無いのか？

c、自分の意思を言葉により充分に言い現す事が出来るか？どうか？辯舌が巧みであるか？

d、筆跡はよいか？惡筆では無いのか？

e、計算に巧みであるか？どうか？

f、算盤、謄寫版その他當人の執務に必要な事務用品の使い方に巧みであるか？どうか？

g、滿洲語、その他當人の執務に必要な語學に通じてゐるか？どうか？

h、文書、物品の整理法、その他當人の執務に必要な知識を持つてゐるか？どうか？

i、計算のグラフ化、速記、その他當人の執務に必要な技術に通じてゐるか？どうか？

j、その他科學的管理法に關する知識經驗を持つてゐるか？どうか？

10、健康

當人の健康の程度を見る爲には、當人の日常に就き、次の様な項目を觀察して見ればよい。

a、日頃から自分の健康によく氣を付けてゐるか？どうか？身体が丈夫なのに任せて暴飲、暴食、その他の無理をしはせぬか？

b、日頃から病氣で缺勤、早退、病院通いなどしはせぬか？（單に太つてゐるからとか、血色がよいからとか

と云う丈で、必ずしも健康、不健康の判斷は出来ぬ）

c、酒量は多くは無いのか？酒に強いのを誇りと感じてゐる氣配は無いのか？

d、花柳病、その他の持病は無いのか？

e、會つて煩つた病氣中、特に氣を付けるべき病氣は無いのか？どうか？

(以上)

蠶絲學雜誌第七卷第三號報文募集

既に一部の會員諸氏には御依頼申し上げて居りますが、本年開かるべき母校開校廿五周年記念を祝賀せん爲「蠶絲學雜誌第七卷第三號」を發刊致します。就きましては一々皆様に御依頼狀は差上げませんが別記御承認の上蠶絲學に關し調査研究に成りました論文を報文として御寄稿下さる名實共に充實せる記念論文集として發行し得る様御援助あらん事を御願ひ致します。

記

- 1、原稿締切 昭和十年七月末日
 - 2、報文の種類 主として蠶絲學に關する研究調査
 - 3、寄稿宛名 千曲會蠶絲學雜誌編輯係
 - 4、添 附 廿五周年記念號應募原稿
- 原稿用紙は御中込次第御送り申します
- 蠶絲學雜誌編輯係
- 既に御依頼しました各位に對して締切を八月末日迄と申上げてありますのは七月末日迄に變更致しました。(山口記)

蠶絲學雜誌第七卷第三號內容

(近日發刊の豫定)

報 文	
I 家蠶外二、三鱗翅目昆蟲の背腺管壁の組織學的構造に關する研究	浦生 俊 興
II 桑樹の發育に關する研究第(二報)	池田正五郎
III 土壌中水分の發育に及ぼす影響	窪田 潤
IV 生絲の物理的性質の研究	松村 季 美
家蠶に於けるカタラーゼ作用の消長	
調 査	
I 土質と桑葉の品質との關係	須田 幸二
II 生絲の日光曝露に依る影響(豫報)	清水 一 郎
III 蠶兒消化管の紫外線發光に就て	納 谷 藤 十
IV 蠶兒の發育並に性比に及ぼすX線照射の影響に就て(豫報)	山口 定 次郎
資 料	宮坂 收
植物のグアイラス病	遠藤 保太郎
最近に於ける蛋白質化學の概要	金子 英 雄
抄 録	
第七卷 目 次	

上田便り

春蘭の競想四園台 上田商會組合第十六回總會は四月十日午前十時より市公會堂で開催されたが當日呼び物の春蘭相場の競想投票を行った結果、沼津黄蘭最高四圓八十六錢、最低二圓五十八錢、平均三圓八十一錢七厘、上田白蘭最高四圓九十四錢、最低三圓八錢、平均四圓二錢七厘の初取引競想値が現れたが四園台の競想は養蠶家を明朗にするものである。

小牧三好町線竣工 兼ねて工事中の上田市小牧三好町線は此程完成したので四月十二日午前十時より竣工式を行った。蠶絲課長更迭 長野縣蠶絲課長高橋伊勢次郎氏は四月十三日附にて新設の農林省蠶業試験場宮崎支場長に轉ぜられたがその後任は兵庫縣農林技師新井馬次氏と決定した。

水産展覧會其他 四月十三、十四、十五の三日間に亘り上田市公會堂に於て長野縣漁業組合聯合會總會、上小漁業組合總會、漁業組合聯合會主催水産展覧會が開催されたが水産展覧會は山國に珍しく始めての催しで全國の漁業に關する珍品が出品され參觀者に感動を與へた。

養蠶青年講習所長更迭 縣立養蠶青年講習所長林幸一氏は在勤二年にて今回靜岡縣靜岡農學校教諭に榮轉したので後任は縣社會教育主事補鹽澤治雄氏と決定四月十七日發令された。

上田局の通信記念日 上田郵便局第二回通信記念日祝賀は四月二十日午前八時より記念式を行ひ廿年以上勤続者鹽川登兩氏へ通信大臣銀盃、表彰狀の傳達があり、九時より局内稻荷社祭禮、參詣の人々に風船玉其他約二千點を縁起として進呈した。十時より三時迄電話分局を開放して一般の觀覽に供し茶菓の接待があり電報電話の利用、郵便利用のしをり配附し交換機の手になるナフタリン人形は飛ぶ様に賣れた。

淺間大爆發 暫く鳴りを靜めてゐた淺間山は四月二十日午後四時廿分頃大響と共到大爆發を起し噴煙は天に沖した。かゝる大爆發は三年來の事で又噴煙の高さは數十年來にないといはれてゐる。

信州のさくら便り 長野運輸事務所調査四月廿三日現在の縣内花便りは左の通り。小諸懷古園一分、上田城址八分、大雲寺八分、治田公園六分、岡田川堤防七分、海津城址六分、長野市城山四分、淺間神社寺三分、高島公園二分、水月園二分、上田附近の花便り 上田公園の櫻は彼岸櫻が六七分咲き、吉野櫻は二分咲き、満開は廿三四日頃であらう。次に長池堤は目下三分咲き、別所温泉は廿八日頃、塔の原は三十日頃、矢澤公園は廿五日頃何れも満開となるであらう。

上小蠶蠶立一割五分減 蠶取上田支所調査の四月廿五日現在管内春蠶蠶立數量は上田三萬七千九百一十一瓦、小縣七萬三千三百四十八瓦計七十六萬四千三百三十九瓦で昨年に比し一割五分減、又蠶種製造數量は原蠶種が上田十一萬三千四百四十八瓦、小縣五十八萬一千千蛾、合計六十九萬四千



(影眞寫寫井三町場馬市田上)櫻の池長

四百蛾、普通蠶種は上田五百七十七千二百三十蛾、小縣二千八百四十三千八百八十蛾、合計三千三百五十二千四百四十蛾で之も昨年より二割減と見られてゐる。

上水道水源池擴張工事竣工式 上田市の上水道水源池擴張工事は昨年二月以來工費二萬六千圓で工事中の所漸く完成し四月廿六日水神祭と合せ現場で盛大な竣工式を舉げた。今迄毎日三万石迄突破すれば斷水と云ふ辛い憂目からのがれる譯でこの夏から充分市民の咽喉を潤す事が出来る譯である。

東信リグ戦愈々開始 運動シーズン來り呼び物の東信中等學校野球リグ戦は愈々四月廿七日から開始された。参加校は上田中學、丸子農商、小諸商業、野澤中學、岩村田中學の五校で土曜及日曜毎に行ひ六月二十三日迄續けられる。

市内野球軟式大會 全上田主催第二回市内軟式野球大會は四月廿九日午前八時より市營球場に舉行母校備人連中よりなる専交俱樂部は決勝戦にて惜敗し新田優勝して優勝旗、カップ、メダルを獲得した。戦績左の如し。

▽第一回戦 運工8-1明星、新田6-13横町、不戦一勝 温電、専交
▽第二回戦 専交8-3温電、新田6-5運工
▽決勝戦 新田8-7専交

ハイキングコース案内 上田温泉電軌では上田市を中心とするハイキングコースとして次の十箇所を選定したが何れも日歸りで運賃辨當付一圓内外で足りるものである。

△上田—眞田—角間溪谷—舊鹿澤温泉—新鹿澤温泉—鳥居峠—菅平口—眞田—上田
△上田—眞田—澁澤—菅平高原—菅平口—眞田—上田
△上田—田中—地蔵峠—舊鹿澤温泉—角間溪谷—眞田—上田
△上田—傍陽—矢坪嶺—地蔵峠—松代—上田
△上田—當郷—殿戸峠—別所温泉—上田

△上田—青木—香掛温泉—大明神岳麓—別所温泉—上田
△上田—別所温泉—野倉—梅之木峠—靈泉寺温泉—西丸子—上田
△上田—須川池—鴻之巣—富士山—上田
△上田—田澤温泉—十観峠—東筑摩郡境—青木—上田
△上田—鈴子—平井寺—布峠—鹿教湯温泉—西丸子—上田
市制施行十五周年記念表彰 上田市では市制施行十五周年記念日の五月一日午前十時より市公會堂に於て六名の自治功勞者六氏及び消防關係功勞者四氏に對する表彰式を舉行縣議、市議、其他の名譽職等多數參加し記念品並に表彰狀を贈呈終つて茶話會を開いた。

小縣の特約組合加入激増 蠶業取締所上田支所調査に依る小縣郡下養蠶家の本年度特約組合加入契約は二百八十組合で十四萬二千九百貫と算せられ昨一年間を漸次その影をひそめつゝある。

通じての七十九組合、七萬二千七百六十五貫に比すれば物凄く激増振りである。蠶種家大量的廢業 上小の蠶種製造家は近年蠶絲界の不況に伴ふ衰退と加ふるに大資本製蠶家の特約組合進出に依つて没落の過程をたどりつゝあるが上田蠶取支所三月中の調べに依る小縣郡蠶種製造家は八年度三八八戸、九年度三七三戸、十年度四月一日現在三五三戸で八年以降三戸が廢業した。上田市に於ても八年度六〇戸、九年度五八戸、十年度四月一日現在五三戸が廢業、縣下一般より見ると九年以來四八戸の減、更に小縣郡各町村の狀態を見るに郡下最大戸數を有する鹽尻村に於ても九年度六二戸か五八戸に減少、神川三六戸が三〇戸に減少、縣村二戸が廿一月に減少で縣下一般に亘つて

大衆文藝で名高い和峠越え

一、二泊の信濃路温泉めぐり

東京から約六時間、上野を發した信越線は、帝都の雑音と郊外の煤煙とから解放されて、關東平野を北へ北へ……碓氷峠を越れば信濃高原の温泉郷が開く。土曜日の午後十二時二十分、上野驛を出發した汽車は午後六時十九分上田驛に着く。(上野發午後三時五十分は午後八時五十二分上田着)上田驛より上田直に快速の電車に乗換へて三十分、身は別所温泉の歡樂境に……。別所温泉は、遊覽と療養とを兼ねた北信濃第一の温泉である。東京に最も近くして交通至便、四圍の眺望豁達にして雄大、しかも山國の温泉として閑雅幽邃なること他にその類を見ない。冬ならば温泉場をとりまく山々が、すつぱり雪に被はれて、温かい湯煙りがゆらりと立ちのぼる……。丁度四條派の畫を見るやうなあの情景。雪交りの風が旅館の雨戸をガタつかせる夜に、明るい室から洩れる三昧線の音、これも山の温泉情緒。別所温泉で一泊したならば、翌日午前十時六分發の電車で西丸子驛に至り、此處より徒歩約五分で和峠越え省營バスの發着所に至る。午前十一時十分は省營バスは發着する。此處は昔の中山道で上下六里の和峠へかゝれば道はU字型よりV字型になり、M字型又はW字型になつてバスは葛連し、東餅屋の休憩所に着き、頂上のトンネルを越せば道は下り勾配となり諏訪盆地に着く。和峠越えは春よく夏よく秋よく冬の雪路又格別の趣きがある。この峠は水戸浪士武田耕雲齋の惡戰苦闘した所、藤村の『夜明け前』一卷を携へ來たらば更に興味深いものがあらう。午後一時五十分バスは下諏訪温泉に着き更に一步を延ばせば上諏訪温泉に至る。明澄なる諏訪湖は私達の前にある。諏訪で休憩して午後三時五十分の汽車に乗れば午後十時五分新宿着である。或は上諏訪温泉で一泊し、翌日歸京するもの面白いであらう。別所温泉で一泊の清遊をなし翌日は大衆文藝で名高い和峠を越え諏訪温泉で更に清遊する。一、二泊の信濃路廻遊は都會人にとつて最も楽しいコースであらう。……(温泉廣告)

母校ニュース

宣誓式新入式 四月十一日午前九時より會議室に於て學務長、教務課長、生徒主事、各科長出席し新入生の宣誓式を行つた。新入式は同十二日午前八時より新講堂に於て行ひ學校長の訓辭、上級生總代表渡邊綱男君(絲三)の歡迎の辭、新入學生總代表柳澤柳二君(紡一)の謝辭があつて第二時間目より普通授業に移つた。新入生は馴れぬノートを筆記するに轉手古舞をしてゐる事だらう。新入生氏名は別記して置いた。

研究生二氏 本年卒業せられたる、瀧澤幸氏(蠶廿三)と坂口諄氏(絲廿三)は研究生として引續き母校に勉學せられる事となつた。

小林尚一氏(紡八)講師となる 母校紡織科に勤務中の同氏は四月十五日附を以て講師を賜託され絲三の紡織論、同實習

松村季美氏の博士論文
文教授會をパスす

兼て東京帝國大學農學部に提出中の松村季美氏(蠶一)の博士論文『家蠶の消化液及び体液に於けるアミラーゼ作用に關する研究』は四月四日の日本農學大會には蠶絲學賞を授與せられたが果して同論文は四月十九日、文教授會の審査をパスし農學博士の稱號を授與せらるゝ事に内定せる旨通報があつた。

同氏は御承知の如く上伊那郡七久保村の出身飯田中學を経て母校蠶絲科に學び卒業後は母校に教授として留り大正十二年來長野蠶業試験場技師及母校講師として今日に至つたもので會員としての博士は向山隆福、八木誠政兩氏に次ぎ三人目であるが母校のみの出身者としては同氏を以て嚆矢とする。御本人は勿論、母校の恩師、我々會員も之に過ぐる喜びなく紙上より衷心からの祝辭を呈すると共に切に今後の自重を祈つてやまない。尙詳細は次號に掲載する豫定である。

を擔當せられる事となつた。

新任片岡綾雄氏 今回蠶絲科に副手として勤務せらるゝ事となつた同氏は大正十三年諏訪蠶絲學校を卒業されると同時に純水館に勤務され其後一身上の都合で退任され昭和七年四月上田市役所に奉職引續き母校に來られる迄同所に居られたのである。従つて現業に、事務に精通され運動方面でも蠶絲科職員中のナンバーワンと云ふ譯である。

新卒業生の母校に奉職されし方々 本年度卒業生にして母校に副手として勤務せられたる左の諸氏である。

坂口育三氏 養蠶科を卒業され蠶絲化學教室須田助教授實驗室に勤務せらる。小林敏氏は養蠶科を卒業され養蠶科原蠶部に勤務せらるゝ事となつた。

崎山正克氏は製絲科を卒業され製絲科へ勤務せらるゝ事となつた。

正副總代任命 第一學期の正副總代は四月六日附を以て左の如く任命された。

正總代 副總代
蠶三 母袋 信介 奥村 忠治
蠶二 望月 藤夫 原 利夫
蠶一 市原 政治 若林 康弘
絲三 渡邊 綱男 岩田久太夫
絲二 叶澤 弘 西原 豊登
絲一 吉川 啓人 阿部 豊
紡三 川久保 元 藤松 利八
紡二 矢崎 勝 矢澤 登
紡一 柳澤 柳二 小林九十二
教一 三戸部 滿 柳原 弘子
教二 中條八千代 柳澤ときわ

生徒主事更迭 金子教授には滿三ヶ年開生徒主事として生徒の訓育に一方ならざる御努力を願つて居たが今回辭職され後任は内田教授が就任せられる事に決定し四月廿三日發令された。

蠶維學會總會及講演會 四月廿六日東京市京橋區京橋二丁目明治屋ビルに於て開催されたる蠶維學會第一回總會及講演會に本校よりは林教授、野口助教が出席した。

紡織科職員生徒剣道試合 四月廿七日午後四時より道場に於て紡織科職員生徒

合同剣道試合を行つた。出場選手は紡織科オンパレードで全員六十名に達し一年生の意氣物凄く職員上級生はダダと云ふ形であつた。

養蠶科職員ドライブ 養蠶科職員有志一行十八名は四月廿八日の日曜日に諏訪湖巡りのドライブを行つた。午前八時上田を出發和田峠を経て諏訪湖を巡り諏訪神社に参拜、上諏訪の湯に遊び再び同コースを経て午後七時上田へ歸つた。

天候は好ましくなつたが僅かに緑の落葉松、白樺の間を縫ふた白い路を砂塵を立てゝ走る實に痛快、時恰も花の見頃下諏訪の公園及湯の町は色とりどりの春の賑ひであつた。

紡織科新入生歡迎親會 四月三十日午後四時より生徒控室に於て紡織科新入生歡迎親會を開いた。先づ岡科長から會の主旨の説明と訓示あつて懇親會に入り煎餅を喰つゝ雑談の時を過し五時半散會したが誠に意義ある催しであつた。

蠶蠶供養及新入生歡迎會 五月一日午前十時(二時間目授業終了後)より校門横落花粉々たる蠶蠶供養塔前に於て校長以下職員生徒参列し別所常樂寺住職半田孝海師を導師として研究の犠牲となつた蠶兒の靈に對し嚴肅なる供養を行ひ終つて全員午前十二時川原柳驛發の電車で川久保驛下車櫻花満開の矢澤公園に至り校友會主催の新入生歡迎會を開いた。會は上級生代表望月藤夫君(蠶二)の歡迎の辭に始まり新入生代表柳澤柳二君(紡一)の感謝の辭次で學校長が『天然美の信州に於ては斯くの如き會は家の中で行ふより青天井の下で行ふ方が意義が深い』と云ふ様な冒頭で有益なる訓辭があり最後に配屬將校谷中佐より現在公園の矢澤城跡來歴に就て諸君を交へて物語りがあつた。

斯くて一同は楽しく進食を済まし氣の合つた同志、思ひ／＼のコースを執り或は電車或は徒歩で歸つて行つた。本日の催しは天候が曇天で寒く時々小雨の至つた

事大が残念であつた。

蠶三の見學旅行 養蠶科三年生廿二名は金子教授、平尾副手に引率され五月二日見學旅行の爲に上京同日は農林省農事試験場、東京高等蠶絲學校を視察、三日は紅葉山御養蠶所を拜觀の後中央氣象台農林省蠶業試験場、工業試験場を見學、五日は東京朝日新聞社、科學博物館を見學し六日歸校した。

養蠶實習開始 養蠶科第二學年は五月十四日春蠶掃立豫定にて五月二日催青に着手した。同二年は十五日掃立豫定にて三日に催青に着手した。猶岳、烏帽子には雪があり氣温低く霜害の心配がある。

全日本武術大會に廣川助教参加 京都武徳殿に於て五月三日から一週間に亘つて開催される全日本武術大會に本校廣川助教が参加した。

談話會例會 談話會は例の如く毎金曜日の午後四時より第十一教室に於て開催された。月日、題目及講師は左の如くである。因に今學期中當番幹事は須田圭二、宮坂收の兩氏である。

四月十九日
一、大日本農學會報告 枇杷木瀧雄
一、同 麗野 誠一

四月廿六日
一、家蠶の化性に關する研究 小林 敏
一、同 宮坂 收

五月三日
一、絲條斑測定機に就て 市原 文雄
一、本繭、出殻繭及板狀繭の紡績比較試驗の結果報告 香山 清和

松村季美氏論文パス祝賀會 松村季美氏(蠶一)は今回農學博士を授與される事に内定したので之が祝賀の宴を五月八日午後五時より市内觀水亭に於て行つた。

參會者は母校職員在田同窓生を合せて六十餘名に達し盛會を極めた。先づ校長の祝賀の辭、次いで松村氏の感謝の辭があつて宴に入り歡を盡して七時半上教授の發聲に和して松村氏萬歳を三唱して散會した。

校友會ニュース

松平神社奉納試合に優勝 四月廿三日の松平神社祭典の演武場に於ける奉納試合に於て本校劍道部平林孝方君(紡一)第一位、千吉良幸君(紡二)が第四位となつた。

一年校友會役員 各科第一學年校友會役員は四月廿四日左の如く決定した。

總務部 市原 政治(蠶一)
吉川 啓人(絲一)
文藝部 瀧川 春夫(蠶一)
下部 春巳(絲一)
剣道部 長倉 稔(蠶一)
演習部 浩(絲一)
演習部 佐藤 祐三(蠶一)
演習部 若林 康弘(蠶一)
演習部 永井 千春(紡一)
弓道部 都筑 正一(蠶一)
四方育太郎(絲一)
山岳部 淺山 茂樹(紡一)
北澤 泉(絲一)
金井 忠義(紡一)
辯論部 鷹野 要吉(蠶一)
宮田 修(絲一)
野球部 小林 龍太(紡一)
進部 精生(絲一)
競技部 北崎 善雄(蠶一)
金丸 八郎(絲一)
柳澤 柳二(紡一)

對上中蹴球戦勝つ 蹴球部は四月廿九日午後一時より上中グラウンドに於て上田中學と蹴球試合を舉行雨の中を兩軍よく奮闘したが結局六對一で勝つた。

對上中野球戦快勝 本校野球部對上田中學の野球試合は五月一日午後三時より市營球場に舉行九對〇で本校快勝した。

本校のメンバーは左の如くである。

投手 古 水 澤 本 島 和 木
捕手 柴 水 澤 本 島 和 木
一塁手 柴 水 澤 本 島 和 木
二塁手 柴 水 澤 本 島 和 木
三塁手 柴 水 澤 本 島 和 木
遊撃手 柴 水 澤 本 島 和 木
内野手 柴 水 澤 本 島 和 木
外野手 柴 水 澤 本 島 和 木

對上中蹴球戦勝つ 蹴球部は五月四日午後四時より上田中學と上中コートに於て蹴球試合を行ひ六組出場し二組を残して勝つた。

(五十音順、○印は無試験)

叙任辭令

本會記事

本會日記

四月十一日 發明協會會長野縣支部より創立記念展覽會へ出品方勸誘せらる。
四月十六日 故佐藤愛之氏の遺族へ有志弔慰金貳拾圓贈呈せり。
四月二十二日 理事會開會本會事務所建築の件協議す。
四月二十七日 群馬縣勢多郡大胡町大胡館に於て開催せられたる群馬千曲會總會に對し本會より林、倉澤、野口の三理事出席す。
五月一日 養蠶科第一學年生見學旅行の爲め上京に付原田東京支會長へ指導方依頼す。
五月四日 二十五週年本會記念品係の打合せを行ふ。

支會通信

宮城千曲會便り

S
N
生

茲皇祖發祥將又靈祖發祥の聖地、日向の南都、都城市の竹葉本店は離れの一室で、火鉢數個を取圍み二月三日の寒さを外に樂しく集へる宮崎千曲會。メンバーは十名なれど中に紅二點の準會員をも含み、さなきだに和やかな空氣はいやが上にも濃やかになる感である。

午後三時穗坂會長の開會の辭及挨拶に始まり昨年十一月鹿兒島高等農林學校記念式へ出席の節、公務止むなく宮崎へ御廻り願へなかつた針塚先生の御言葉の報告、中島先年度幹事の事務、會計報告に移り、次いで宮崎千曲會規則並に同附則の改正議事に入り、更に本年度幹事として内田氏と中島が推され紅二點と別れ親睦の宴に移る。

以下長老穗坂氏より出席者のプロフィールを素描して便りに代へよう。

穗坂兄——母校を後にして二十餘年、

獸根製造の達藝を以つてするには南信の
喬木館では餘りに舞臺が狭く、大鑑紡の
檜舞臺にまで引出されては、寄らば大木
への心境になるのも、腕の兄ならばこそ
無理ならぬ。北より南下しての適應が頭

髪に現れ大分夏向きになつたが、こつそり美人の長唄をノットする邊りは案外の處あり。

又木兄——野人の追従を許さぬ仙人的風格は豈に本會の誇のみならんやだが、心底にたぎる母校愛の熱情は、知る人ぞ知るである。尙ほ拜聴の榮に浴した兄の長唄には、何んともかんと云へぬ妙味がある。

内田兄——鐘紡蠶種製造所の女房役としての敏腕は穂坂兄のみの認むるのではない。信州豊科で磨いた一剣を胸中に秘め、嘗ての官界の勇も、實業界の覇を握る相を備へたと云ふて敢て過言ではあるまい。其の覇者の卵も正調木曾郎りの免許皆傳だとは又風情がある。本年は新幹事として御審閱を乞ふ。

氏家兄——宮崎郡是蠶事所の重鎮として今は無くてはならぬ存在だ。生來の溫良性は覆ふに術なく、其の上汲々と働く

[illegible]

望月兄——鐘紡宮崎工場に半昔を過した。恐ろしく場内上下の信任を一身に集め謙讓の徳を具へ、克く難局に向ひて喜ぶ我等同志の愛自重の程を。

伊藤兄——那是宮崎工場に於ける奮闘も短歲月でなく、工務の中堅として兄な
ては、同工場の運轉は不可能とさへ云
はれて居る。其の責任の重きが故か、頭
委は大分名残りを惜しまねばならぬ現狀
である。併し元來が紅顔の美青年のせい
が酌手の攻撃は多いけれども利して動ぜ
ずの手際鮮かである。

坪根兄——兄の明朗振りは殆んど満點に近い。平素の日本製絲株式會社都城工場に於ける緊振りに引替へ、酒席の朗かさは奇効あるてふホルモン注射に勝る治力を一同に與へる。出るは千曲小唄、須坂小唄、菅平小唄等々次々と盡る所を知らない。本會は實に兄に依つて、心脾を強くし血に潮赤味を増し、永久に若さを保つてあらう。兄よ宜しく其の職場に於て其の天分を十二分に發揮せられんことを。

御澤さん、兄玉さん——參會者一同の葉に依り、御二人の精勵振りを具さに知る。女の身を以て遠い南の國に、斯くも實績を擧げて居られるのは、本會としての喜びである。今日出席して下さつた御二人は異郷に於て懷しの姉妹に相會ふの歡を一同に抱かせ懷郷の念を禁じ難からしめる。花なら薔、笑まんとする御二人の良き實を結ばれる日の近からんことを切禱る。

筆者——蒲生教授の生理解剖研究室が生んだ初代の産物には些か物足らぬ存在である。宮崎高農の生活も、蠶絲學擔任の傍、心なき蟲を友として早や八星霜を送迎し、少しく沈滞の觀無きにしとあらず。頗くは諸賢の御鞭撻の程を。

酒席の亂筆を多謝し、廻筆。

(昭和一〇・二・三)

(昭和二〇、二一)

計報

弔慰金報告

故佐藤興之氏弔慰金第四回

金貳圓也 川船 卓爾

金壹圓也 北澤 孝一

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故小林實一氏弔慰金第四回

金貳圓也 蒲生 俊興

金壹圓也 高木 三治

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故馬場政友氏弔慰金第四回

金貳圓也 依田寛之助

金壹圓也 川船 卓爾

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故佐藤彰二氏弔慰金第四回

金貳圓也 高木 三治

金壹圓也 依田寛之助

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故中曾根誠一氏弔慰金第四回

金貳圓也 一之瀬 茂

金壹圓也 萩原 行雄

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故井上泰利氏弔慰金第三回

金貳圓也 宮原 秀人

金壹圓也 桐原 達郎

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故品川末夫氏弔慰金第三回

金貳圓也 針塚 民一

金壹圓也 手島 孝一

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故馬場豐氏弔慰金第三回

金貳圓也 桐原 達郎

金壹圓也 酒井 淳夫

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

依田寛之助

收 道男 西尾 重郎 宮城 忠夫

北澤 孝一 依田 彌亮 宮原 秀人

右合計金拾圓也

累計金拾九圓也

故梅澤庫太郎氏弔慰金第二回

金貳圓也 高木 三治

金壹圓也 山本友之政 岡宮 靜子

右合計金四圓也

累計金五圓也

故武田豐太郎氏弔慰金第二回

金壹圓也 樋口 忠義 森 千城

右合計金貳圓也

累計金貳拾圓也

故居相泰一氏弔慰金第一回

金壹圓也 蒲生 俊興 橋本 武光

右合計金貳圓也

故越智岩平氏弔慰金第一回

金壹圓也 橋本 武光 後藤 仙彌

右合計金貳圓也

右合計金貳圓也

弔慰金募集

本會々員 故梅澤庫太郎氏(五)

故居相 泰一氏(六)

故越智 岩平氏(九)

右記諸氏に對し前月に引續き弔慰

金を募集致します。然して右弔慰

金は六月末日迄に取經め御遺族へ

贈呈したいと思ひますから、夫れ

に間に合ふ様振替口座東京四三三

四一番へ夫々同氏弔慰金の旨御記

入の上御拂込下さい。

昭和十年五月十五日

上田蠶絲專門學校千曲會

故武田豐太郎君の英

靈に接ぐ

山形市 啓 絹 生

一月二十七日天童町志田病院から豊太
郎君重病で六ヶ数いと報に接し驚き乍
ら取急ぎ見舞に走つた。ところが思つた
より重態なので一層悲しくなつてしまつ
た。聞けば四、五日前腹痛烈しき爲診て

(武田豐太郎氏遺影)



蠶種業界の爲(將來は蠶種業組合長位
には成れる人物)有形無形の損失を招く
のだ。噫愛惜の情に堪えない。何んとか
生かして貰へないか、天よ、神よ、今少
し意氣を丈夫に生き耐へてくれないうか、
現代超進化醫學の力で再生の途はないも
のか等と念願しつゝ頭は悶々として刻一
刻近付く死を見護るのみ。御両親御夫人
は枕頭に多數の親類や見舞客は別室に暗
雲に包まれて君と永遠の別れを惜しむが
如く、父君等は最早や葬儀の打合せ迄取
り運ぶ等實に同情に餘りありであつた。
ところが數刻を経て奇蹟的に病狀が好轉
し其の悪日は過ぎ去り一同愁眉を開き實
に各々自分が蘇生したかの如き喜びであ

つた。
二月に入つてからは益々快方に向ひ二
月十七日は休日でもあり君も小生と會談
するのを心待ちの様子であつたから病室
を訪ね數時間愉快に語りあつた。蠶絲業
の現況や君が家の新年度蠶種製造計畫の
相談を受ける等共に涙の出る様な嬉しさ
を交した。僕は今日の様な具合に元氣を
出して一日も早く癒る様養看護共につ
めて呉れと力をつけて歸形したのであつ
た。然し此の目を以て君と永遠に最後の
別れにならうとは夢想だに氣付かないの
であつた。其の後の良い方に向ふものと信
じ小生數日出張不在となり歸形した日に
武田君が山形市内天吹外科病院に來て居
ることを聞いて大いに驚き早速駆け付け
て見舞ふたところ『天童では完全なる治療
手當が出来ぬから出形した。又餘病も發
生の爲再度手術したが結果がどうも不良
である。喉も出て居るので一層案じられ
る』とは家人の談であつた。絶對安靜、
面會謝絶なれば小生は病室外で早く苦し
みが去る様少しも早く元氣恢復する事を
念願するのみであつた。二月二十七日の
朝出勤すべく家を出ようとしたら病院か
ら電話で病人が今俄かに惡變し危篤にな
つたと知らせが來たので馳せつけたが其
の時は既に此の世の人ではなかつた。間
もなく井上前田兩兄も急を聞いて見舞は
れて君が永遠に眠れる顔を見れば彼が他界
に於ける多幸を祈つた。

惡病に冒されて以來一ヶ月間再々の病
苦と闘ひし面影が意氣を強固に耐へられ
し尊き死顔、然し生前と變らぬ明朗なる
顔を視る時は小生は萬感胸に迫り、天が
無情を恨み興奮して悲しみの涙さへ多く
出なかつた。春秋多き(四十年)青年紳士
たる君を奪はれたるは返す返すも残念で
たまらぬのである。
三月二日君が葬儀に參列した。冬季の
北國は毎日惡天候であるが此の日は君を
送るに相應しき晴天に恵まれ、當地方の

名望家に生れたる君の事でもあり名譽あ
る陸軍將校として、又村に於て數多き要
職に多大の努力を惜まなかつた關係から
葬儀は盛大なるものにて行列は約三丁も
續き恰も村葬か軍葬の如き觀を呈し君が
在生中の徳望が如何に絶大なりしかを窺
はれたのであつた。

各方面よりの哀情籠れる十餘通の弔辭
と弔電數十通本會の弔辭は今井兄代讀下
され特に母校の校長閣下並本會及び原由
大兄からの弔電を讀まれた時は思はず頭
が下り熱き涙が止らなかつた。君よ冥世
よ、願れば君が一度病重しの報村民に傳
はるや各種團體代表は夫々の神社に馳せ
參じ一日も早く快癒し彼の元氣な健康體
を再び我が村に迎へ得らるゝ様念願せら
れたる由、又君が指導せられた青年訓練
生數十名と多數青年團有志はどしどし輪
血を申込まれたとか、君が家に出入する
多數の従人連中は晝夜不眠不休看護に當
られる等涙なくして聞かれざる赤誠が數
々あつたのも君が人格徳望の結果に外な
らぬと思ふ。此溢る美談を君は地下にて
感謝してゐるのだらう。一方御實父と令
閨の御看護振りと御憂慮は甚大にして、
君は地下で感謝し且満足して居るであら
う。御實父等は君が一度病で倒れるや寸
時も君の枕頭を離れず永遠に別れる迄御
家に御歸りにならず看護せられたる其の
御眞情は實に美しく親として最大の愛を
垂れ立派な御手本を示されたのである。
御令閨に於かれても重病の爲め病院に運
ばるゝや名家の令夫人として又將校夫人
として氣丈夫なる態度で不眠不休三十日
間看護せられたる、然も死に直面しての
御覺悟振りは實に立派なものであつた。
而して十四才と十一才の女兒の將來の成
育を故人から託されては一層御健闘を祈
らざるを得ないのである。亂文を草し以
つて武田君の英靈安からんことを祈り
併せて御遺族に對し、謹んで弔慰を表し
奉る次第である。

越智岩平君の思ひ出

勝又藤夫



三月三十日午前一時頃越智君逝去の電報を受けた。發信人は越智夫人である。併し時間外配達電報であり乍ら二十七日死去となつてゐることや数日前まで手紙を往復してゐた關係から死を信じられな

越へて四月一日未亡人から、四月二日友人松江農林教諭米谷次作氏から手紙を受けた。それによると越智君は長らく神經衰弱であつたが無理をして職務にあり遂に餘病を發し急逝されたとのことと實に本當であつた。米谷先生は『家庭には

越智君逝去の確定で同窓の誰彼は『あの岩へ落ちた人か』と云ふわけで君は蠶七回に入學したが歸郷中怪我してから蠶九回になつたのだ。私は入學當時の君を知らぬが蠶九回となつてからの君は正直

君は學生時代から寫眞をよくした。鐵やコエタゴを擔つた越智、勝又の寫眞は石原君にシヤッターを切つてもらつたのだ。君の寫眞は夕方とか夜明け頃の雲をよく出した。常田池の朝の雲は忘れ

越へて四月一日未亡人から、四月二日友人松江農林教諭米谷次作氏から手紙を受けた。それによると越智君は長らく神經衰弱であつたが無理をして職務にあり遂に餘病を發し急逝されたとのことと實に本當であつた。米谷先生は『家庭には

昭和三年春松江農林學校へ移つてから越智君の苦悶は始まつたらしい。稀に寄せる手紙にも家族の病氣で心を痛められて居つたのだ。それ等のことや山蔭の氣

やつても何の返信もなかつたのはやはり病氣でゐた爲かも知れない。此の二月に二十五周年の記念祭に何か記念事業でもやらうかと云つてやつたら『賛成だ。尙

廿五周年記念事業

校長壽像建立位置決定 校長壽像建立位置に就ては作者石井先生、文部省當局の意向を尋ね種々調査の結果愈々本館東

同窓會館建設位置確定 同窓會館の位置は校門を入つた南側、即ち書庫とテニスコートの間に建設される事に此程決定

第十二回贈出金申込者(四月三十日現在)

拾口 藤井 周藏(蠶六) 山口 中島 茂司(蠶八) 三谷 秀子(蠶二) 合計人員 六名 合計口數 貳拾口 合計金額 百圓也

第十二回贈出金納入者(四月三十日現在)

金五拾圓也 金拾圓也 金貳拾圓也 金貳拾圓也

戸倉 八峯(蠶二) 母袋 良平(蠶十) 〇大箸 政平(蠶二) 永井 榮(蠶二) 〇河合 英一(蠶五) 金貳拾圓也

中山 吉二(蠶三) 〇宮下 京三(蠶三) 〇原 茂(蠶三) 〇大熊 康代(蠶三) 〇武本 木治(蠶三) 〇山岸 武(蠶三)

〇北條五郎右衛門(蠶七) 〇山本 賢市(蠶六) 〇竹内 博男(蠶九) 〇伊藤 柳作(蠶一) 〇中澤 忠(蠶一)

〇依田寛之助(蠶十) 〇倉橋 琢而(蠶十) 〇牧野 春雄(蠶十) 〇新庄哲二郎(蠶十) 〇荒井 猛(蠶三) 〇左右田 武(蠶三)

〇清水達太郎(蠶一) 〇森 千城(蠶一) 〇北澤 茂(蠶二) 〇立岩 笑保(蠶三) 〇岡部 康之(蠶四) 〇榎原鶴次郎(蠶四)

〇服部彌一郎(蠶五) 〇岩切 作次(蠶五) 〇清水 六郎(蠶五) 〇吉松 千秋(蠶六) 〇加藤 明(紡八) 〇宮澤 ち(舊教五)

〇福富 繁(蠶七) 〇藤崎 鑽(蠶七) 〇細川 護(蠶八) 〇萩野 徹間(蠶八) 〇坂田 正賛(蠶八) 〇三好 圭一(蠶八)

〇武川 勇(蠶九) 〇山崎 保太(蠶九) 〇中島 文雄(蠶九) 〇佐藤重太郎(蠶九) 〇岸 善亮(蠶九) 〇萩原 幸胤(蠶十)

〇關野 憲三(蠶七) 〇水城 孝男(蠶七) 〇市川 清(蠶三) 〇若林 茂一(蠶三) 〇門田秀太郎(蠶十) 〇古川 俊之(蠶十)

〇大阪府三島郡吹田町泉町二六一五 吹田第二小學校西五軒目

轉居御通知

拜啓風流緑樹の候益々御清適奉賀上候 今回左記へ轉居致し候間御通知 申上候 省線も電化し便利に相成候に就き御下版の節は御立寄被下度候 昭和十年五月十二日 久保田 一 德

創立廿五周年記念
風呂敷圖案募集

左記に依り千曲會員及在校生の圖案を募集す

- 一、圖案 縮尺三分の一以上の大きさ
- 一、意匠 圖案製作し難き向は精密なる圖形を畫き、施すべき色彩を説明記入する事
- 一、心得 風呂敷は富士絹に友仙染付とし本校廿五周年記念を標示するもの
- 一、締切 六月十五日限
- 一、選定 記念品係にて行ふ、係長は石倉
- 一、賞金 圖案當選一名金拾圓、次位二名金五圓宛

會費領収(四月廿日)

昭和九年度通常會費納入者

(〇印は蠶絲學雜誌代共)

- 〇池内 眞吾(蠶十九) 萩野 俊(蠶八)
- 〇黒岩 豊(蠶九)

昭和十年度通常會費納入者

(〇印は蠶絲學雜誌代共)

- 〇大山 融(蠶五) 〇江口 嘉清(蠶五)
- 〇渡邊 嘉博(蠶五) 〇張 復昇(蠶六)
- 〇岩切 作次(蠶五) 〇島倉惣次郎(紡六)

入會金納入者

- 完納者 茂樹(蠶五) 大山 融(蠶五)
- 江口 嘉清(蠶五) 渡邊 嘉博(蠶五)
- 岩切 作次(蠶五)

金拾圓也

終身會費完納者

久保田一徳(蠶四)

未納會費納入者

金五圓也

金參圓也

蠶絲學雜誌代納入者

- 金貳圓也 高木 三治(蠶三)
- 金壹圓也 米澤 俊吾(蠶五)

お願ひ (千曲會々員名簿發行豫告)

本年度は新入會員の住所が大體定まつた頃六月現在の會員名簿を發行したいと思ひます。尚ほ今回は勤務先の外に別欄を設けて自宅をも記載いたします。就ては勤務先及自宅等未報告の方は昨年度會員名簿添付私製端書又は官製端書にて此際至急千曲會勤務部宛御一報下さい。

昭和十年五月

千曲會勤務部

新會員就職先 (五月五日現在)

養蠶科 二二回 (昭和一〇年)

- 青木 深 (勤)愛知縣岩津町、愛知縣蠶業試驗場岩津支場
- 青木 幹夫 (勤)長野縣上高井郡須坂町、昭榮製絲株式會社須坂工場
- 淺川 茂樹 (勤)福島縣河沼郡坂下町、會津農林學校
- 伊藤 幸男 (勤)郡山市、日東製絲株式會社郡山工場原料課
- 江口 嘉清 (勤)東京市杉並區高圓寺、農林省蠶業試驗場
- 大山 融 (勤)長野市岡田、長野縣蠶業試驗場
- 岡田 龜治 (勤)松本市蠶玉町、片倉一代雜種普及團
- 國島 正 (勤)岐阜市、岐阜縣蠶業取締所
- 古平 義雄 (勤)東京市麹町區大手町、農林省蠶絲局蠶業課
- 小林 茂男 (勤)滿洲國安東縣安東市、安東市蠶絲検査所
- 小松 敏 (勤)本校蠶絲化學教室
- 坂口 育三 (勤)本校蠶絲化學教室
- 鈴木 重存 (勤)岡崎市上六名町、日龍蠶種株式會社研究部
- 鈴木 茂 (勤)松本市蠶玉町、片倉一代雜種普及團
- 鈴木 正一 (勤)長野縣諏訪郡上諏訪町、長野縣蠶業取締所上諏訪支所
- 瀧澤 幸 (勤)本校蠶科(研究生)
- 田近 肇 (勤)本校入組部
- 多田 作造 (勤)松本市安原町八五二(自營)
- 西澤 正雄 (勤)東京市杉並區高圓寺、農林省蠶業試驗場
- 羽吉 正義 (勤)朝鮮水原、朝鮮總督府農事試驗場蠶絲部
- 半田 義雄 (勤)長野縣更級郡篠ノ井町、長野縣蠶業取締所篠ノ井支所
- 藤田 四郎 (勤)本校入組部
- 藤田 武 (勤)埼玉縣加須町、埼玉縣蠶業取締所
- 松本 義男 (勤)東京市杉並區高圓寺、農林省蠶業試驗場
- 水野 市 (勤)長野縣北安曇郡神城村、實業補習學校
- 森山 忠夫 (勤)長野市岡田、長野縣蠶業取締所
- 吉池 權五郎 (勤)長野縣南佐久郡野澤町、長野縣蠶業取締所野澤支所
- 米澤 俊吾 (勤)群馬縣多野郡新町、昭榮製絲株式會社新町工場
- 鋳場 好作 (勤)本校蠶科

製絲科 二二回 (昭和一〇年)

- 有賀 茂 (勤)埼玉縣大宮町、片倉製絲紡績株式會社大宮研究所
- 猪原 良芳 (勤)倉敷市、倉敷絹織株式會社倉敷工場(住)岡山縣倉敷市外酒津麗音莊
- 今村 覺治 (勤)兵庫縣和田山町、日東製絲株式會社和田山工場
- 上木 忠士 (勤)山口縣佐波郡防府三田尻、福島人絹株式會社
- 白井 洋介 (勤)福島縣原町、日東製絲株式會社
- 乙丸 義雄 (勤)宮崎市、宮崎縣蠶業取締所
- 尾澤 敏男 (勤)神戸市林田區吉田町一丁目、鐘ヶ淵紡績株式會社武藤理化學研究所
- 片岡 金一 (勤)本校蠶絲化學教室
- 久保井左武郎 (勤)福島市小山荒井、丸共製絲株式會社

絹紡織科 一四回 (昭和一〇年)

- 飯田 喜雄 (勤)桐生市三吉町、兩毛製絲株式會社
- 小澤 利雄 (勤)群馬縣富土郡吉原町、東京人造絹絲株式會社吉原工場
- 河村 信夫 (勤)東京市下京區七條千本南、第一工業製絲株式會社
- 木下 重政 (勤)滋賀縣神崎郡五條村宇林二、湖東紡績株式會社龍登川工場
- 北野 三郎 (勤)本校入組部(日出紡績株式會社入組部研究生)
- 本山 新一 (勤)大阪府北東野田町六ノ二六番取勝
- 黒岩 君雄 (勤)大津市石山、東洋レイヨン株式會社
- 柴田 久 (勤)前橋市岩神町、日本人造絹絲株式會社(住)前橋市向町六四
- 中野 六郎 (勤)大阪府泉南郡春木町、岸和田紡績株式會社春木工場
- 野尻 巴 (勤)廣島縣三原町、帝國人造絹絲株式會社三原工場(住)同工場寄宿舎
- 細井 政吉 (勤)大阪府泉南郡貝塚町、貝塚紡績株式會社
- 百瀬 文雄 (勤)富山縣東礪波郡非波町、吳羽紡績株式會社井波工場(住)同上社宅五ノ六三番
- 山本 七郎 (勤)静岡市長沼、三光紡績株式會社静岡工場
- 村橋 決 (勤)一宮市外馬引、愛知縣毛織物検査所一宮支所
- 井上 すい (勤)群馬縣新町、昭榮製絲株式會社新町工場
- 白井 和子 (勤)今治市外富田、日東製絲株式會社愛媛工場
- 萩原 正次 (勤)滿洲國安東縣廣濟街、炸蠶絲検査所
- 上條 理 (勤)東京市杉並區高圓寺、農林省蠶業試驗場、(住)同上女子寄宿舎
- 清水 藤江 (勤)埼玉縣大宮町、片倉製絲紡績株式會社大宮研究所
- 關 あざと (勤)三重縣鈴鹿郡龜山町、龜山製絲株式會社
- 田中 市江 (住)長野縣更級郡稻荷山町旭町
- 西原 藤 (勤)山形縣東置賜郡漆山町、多勢丸多製絲株式會社
- 深町 いづ (勤)熊谷市、林組製絲株式會社熊谷製絲所
- 藤田 しづ子 (勤)三重縣鈴鹿郡龜山町、龜山製絲株式會社
- 宮城 久子 (勤)岡山縣勝間田町、鐘淵紡績株式會社勝間田工場
- 山崎みつ子 (勤)熊谷市、林組製絲株式會社熊谷製絲所
- 若林のち子 (勤)静岡縣大宮町、山下製絲所
- 和田 りん (勤)熊谷市、林組製絲株式會社熊谷製絲所

(五月五日現在)

[illegible]

新村 五郎(紡二)
 井上 一郎(紡一)
 林 太郎(紡三)
 高品喜一郎(紡四)
 神林 浩三(紡四)
 櫻井 隆夫(紡四)
 岡 豐治郎(紡五)
 上田 和男(紡六)
 橫瀨政之助(紡一〇)
 鈴木 一郎(紡一三)
 山田 隼男(紡一三)
 梁山 ひとり(紡三)
 森 ふじい(紡三)
 中澤 利子(紡三)
 兒玉 孝(紡四)
 高橋 スズ(紡五)
 須藤 靜子(紡一)
 (勤)鹿兒島縣宮之城町、薩摩製絲株式會社宮之城工場
 (佳)橫濱市鶴見區鶴見町豐岡三八八
 (勤)福岡市城郡錦村、昭和入絹株式會社錦工場
 (勤)福井市佐佐枝中町、福井縣生絲檢査所
 (勤)石川縣小松町、金澤輸出絹織物檢査所小松支所(佳)小松町丸內町々營住宅六號
 (勤)岐阜市辨天町二三番地、日東製絲株式會社岐阜研究所
 (佳)岐阜市池田町一八番地
 (勤)一宮市外馬引、愛知縣毛織物檢査所一宮支所
 (勤)大阪市東區伏見町五丁目日本徵兵館四階、東邦人造纖維株式會社(佳)京都市伏見區西鍛屋町四一二
 札幌市、北海道帝國大學理學部物理學科(入學)
 (勤)一宮市外馬引、愛知縣毛織物檢査所一宮支所
 (勤)福島縣石城郡錦村、昭和入絹株式會社錦工場
 (勤)ナシ(佳)上田市鷹匠町六二五
 (勤)廣島縣雙三郡古市町、北都乾澱組合更生社
 (勤)滿洲國安東縣廣濟街、滿洲靑蠶絲檢査所
 (勤)栃木縣小山市町、昭榮製絲株式會社小山工場
 (勤)埼玉縣本庄町、昭榮製絲株式會社本庄工場
 (勤)福島縣二本松町、會陽製絲株式會社二本松工場

詔啓時下陽春の候益々御多祥の段奉慶賀
候、陳者私儀今般片倉佐賀蠶種製造所勸
務の社命を蒙り取急ぎ赴任致す事に相成
候、願れば大正十二年薩摩製絲赴任以來
十三ヶ年の久しき公私の別なき深甚の御
温情と格別の御支援とを賜り衷心より御
禮申上候

猶ほ蠶種等に就きては一向に未經驗のも
のにつき何卒今後とも倍舊の御援助賜り
度く伏して御願申上候、先は御挨拶申上
度如斯御産候 敬具

昭和十年三月二十七日

佐賀縣小城市
片倉佐賀蠶種製造所

甲斐
孜

◇新會員就職先はその儘會員名簿に貼附出来る様に組立てゝ置いた。

謹啓 春暖之候益々御清祥之段奉賀候。
陳者小生儀母校在學中は種々御厄介に相
成感謝仕候。今回御蔭様にて母校に副手
として採用さるゝ事と相成候間今後共倍
舊の御愛顧と御鞭撻賜度御依頼申上候。
先は略儀乍ら紙上を以て御挨拶迄如斯
御座候。 敬具

昭和十年五月

第廿二回卒業生

拜啓春暖之候益々御清祥之致奉賀候
陳者小生儀母校在學中は種々御介介
に相成り感謝仕候、今回御慶様にて
母校製絲科に副手として採用下さる
ゝ事と相成候間今後共倍舊の御愛顧
と御鞭撻賜度御依頼申上候
先は略儀乍ら紙上を以て御挨拶迄如
斯御座候
敬具

明瞭な洋室 落付いた
和室（數室）
上田市袋町 電話13番

上飯島商店

御來田のお土産は

みずぎ	上●のフルーツ
杏ゼリ	チョコレート
水飴	黒羊
羊羹	羊羹
信濃そば	果物類
	罐詰

千曲會指定旅館

上村木テル

電話三二七番